

日高町教育長杯少年野球大会・少年野球教室を開催

9月17日、町営日高球場において、日高地区生涯学習事業推進協議会主催の令和4年度日高町教育長杯少年野球大会が開催されました。

開会式では、武田教育長からの挨拶の後、日高管内及び近隣町村6チームによる白熱した試合が行われ、JBC日高ブレイヴが優勝、新冠野球スポーツ少年団が準優勝となりました。

翌日は、少年野球教室「北海道日本ハムファイターズフィールドクラブ」が開催され、参加した小学生31名は元プロ野球選手の的確な指導に真剣な眼差しで聞き入ったり、にこやかに答えたりしていました。



日高地区英会話教室（後期）スタート

10月4日から日高町民センターにおいて、令和4年度後期の日高地区英会話教室が、アダルトクラス5名の受講者でスタートしました。

英語指導助手のジョーンズ・デッド・ダーウッド先生の指導のもと、和気あいあいと楽しみながら、英語力向上に励みます。



はじめての開催「日高町リアル野球盤」大会

10月16日、町教育委員会、町スポーツ推進委員協議会の共催により、令和4年度町民スポーツのつどい「日高町リアル野球盤大会」が開催され、小学生から50代までの男女9チーム60名が参加しました。

バッティングマシンから放たれるボールを打つことは意外に難しいようでしたが、ヒットが出ると敵、味方関係なく拍手や歓声を送られる和気あいあいとした雰囲気の中開催されました。

トーナメント方式で8試合行い、日高地区から参加した「ふみごろうとゆかいな仲間たち」チームが優勝しました。



日高町出身の吉本さんが全国中体連卓球大会出場

吉本 はなさん (大阪府貝塚市立貝塚第二中3年)
・日高ジュニア卓球クラブ出身

8月19日から22日まで苫小牧市で開催された全国大会に出場し団体戦で準優勝の成績を収めました。

吉本さんはキャプテンでエースとしてチームをまとめ、予選リーグから決勝トーナメントまで全て勝ち、4連覇はなりませんでしたが貝塚第二中学校の準優勝に大きく貢献しました。

また、個人戦でもベスト8に入り、更なる飛躍が期待されます。

☎ 教育委員会社会教育課 社会教育グループ ☎ 01456-2-2451



試合に臨む吉本選手

第66回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会

10月18日に、札幌市の札幌市教育文化会館で第66回北海道高等学校定時制生徒生活体験発表大会が開催され、日高高校から3年生の松澤隆英さんが出場しました。

松澤さんは、7月に行われた校内選考で選ばれ、8月に本校の選抜生徒に帯広柏陽高等学校の選抜生徒を含めた日勝支部大会で最優秀賞を受賞し、今大会に臨みました。大会には石狩地区をはじめ、道南、後志、空知、道北、オホーツク、釧根、胆振、各支部からの選抜生徒と通信制の選抜生徒、日勝支部の選抜の松澤



さんを含め12名の生徒が参加し、それぞれの経験や学校での体験を各々の言葉で表現していました。松澤さんは、抽選の結果、発表のトップバッターとなり、緊張するシチュエーションではありましたが、堂々と「ニンゲンカンケイ」という題で日高高校での経験や保護者との関わり、これまでの経験によって気づけたことを述べていました。残念ながら全国大会出場生徒として選抜されませんでした。生徒本人にとっては今後の進路や将来につながる貴重な経験になったことでしょう。



日高高校写真部が全道で佳作2名の快挙 ～全道高等学校写真展・研究大会～

10月19日から21日に小樽市総合体育館と小樽市民会館で北海道高等学校文化連盟第46回全道高等学校写真展・研究大会が行われ、日高高校から3年生の松澤隆英さんが2作品、1年生の今慶之介さんが1作品出展し、支部大会で作品を出展した1年生の米沢愛羽さんと3年生の矢田真白さんも参加しました。

初日は撮影会が行われ、生徒4人が小樽市内のさまざまなスポットを訪れて、思い思いにシャッターを切っていました。小樽運河周辺や堺町通り商店街、天狗山や旧手宮線跡と、撮影ポイントに事欠かない小樽の魅力に生徒は引き込まれていました。そうして撮影した中から1枚のベストショットを選び抜き、日高高校写真部の1枚として提出



しました。2日目は小樽市総合体育館での作品講評がありました。審査員の先生による1枚1枚の作品講評を、

生徒4人は自分たちのだけでなく、他校生徒の作品講評にも真剣に耳を傾けていました。なお、審査結果については、3年生の松澤隆英さんと1年生の今慶



之介さんが共に佳作を受賞するという好結果を収めることができました。午後には小樽市民会館で地元写真家の方による講演会を拝聴し、2日目が終わりました。最終日は、1日目に行われた撮影会の講評と表彰式が行われました。

生徒たちは満足感と充実感に満ちた全道大会を無事に終えることができました。写真部1年目の1年生たちは特に多くの刺激を受けたことと思いますし、3年生たちはコロナ禍で過去2年間ずっと全道大会参加ができなかった悔しさを晴らすことができたと思います。